

# 日常生活における個人線量の活用例

## ①伊達市における報告

菅野康弘<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>伊達市役所健康福祉部

### 1. はじめに

東京電力福島第一原子力発電所事故により、市内の一部は『特定避難勧奨地点』の指定を受けるなど、市民全体に放射能の健康被害への不安が大きくなっています。伊達市ではこの事態に対し、迅速な除染作業や地場産品への風評被害の払拭、健康管理対策に取り組んでいます。

### 2. 伊達市における取り組み

伊達市では市内の除染を進めるとともに、市民全員の被ばく線量測定を行いました。また、放射能・放射線の正しい情報と健康づくりについての知識、被ばく線量測定結果の普及推進を図ることで、市民の知識向上と健康不安解消に努めています。

#### ①外部被ばく線量測定

外部被ばく線量は、各個人の行動や職業による生活行動が反映されるため、ガラスバッジを市民に配布・測定し、各個人の実効線量を知っていただくことを目的として実施しています。

その結果、地域差はあるものの外部被ばく線量は年間 20mSv を十分に下回ることを市民へ広く周知することができ、放射能に対する不安軽減に繋がりました。

#### ②内部被ばく線量測定

食生活（経口摂取）による各個人の内部被ばく線量を知っていただくため、ホールボディカウンタ（WBC）による内部被ばく検査を実施しています。

その結果、受検者全員が預託実効線量 1 mSv 未満となり、健康に影響が及ぶと考えられる値ではないことが確認できました。

#### ③市民の知識向上と健康不安解消

「放射能・放射線の講話」や「放射能健康相談」の実施により、個人差はあるものの市民の放射能・放射線にかかる不安は沈静化してきています。